

タイトル 魅力ある香川県にするために

私は、生まれてから今までずっと香川県で育ってきました。近年、日本の人口は、大きく変化しています。特に、年少人口の減少と老年人口の増加が著しく、少子高齢化が急速に進んでいます。そんな中、地方の高校生は地元を離れ、都会の大学へ進学し、そのまま地元に戻らずに就職する人が多いようです。実際、私も、都会の暮らしに憧れ、都会の大学へ進学するという考えもあります。もしも、私と同じような考えをしている若者が多くいたなら、これからの日本社会の中心となって、国を支える人がどんどん地方を離れ、都会に進出していきます。このようになると地方では、過疎になり、都会では過密になります。また、地方では、活気が失われたり、各地方の伝統が受け継がれなくなったりします。さらに、最近では、地方の高齢者の一人暮らしや交通手段がないため買い物に行けないことが、問題になっています。このような問題を改善していくためにも、若者が地方に残り、より良い地域を作り上げていくことが大切なことではないでしょうか。確かに、地方の若者にとっては、都会に進出していけば、人間関係が広がったり、幅広い分野が学べたりします。また、交通の便が優れていたり、病院の種類が豊富で数も多かったりするなど、メリットがあります。しかし、どこに行っても混雑していたり、通勤や帰宅ラッシュで苦勞したり、時間帯や場所によっては、犯罪が起きやすかったりするなど、デメリットもたくさんあります。

では、どのようにしたら、若者が地元や地方に定着するのでしょうか。私は、香川県を例として若者の定住化について考えてみました。そもそも、若者が多い地域とは、一般的にどのような地域なのでしょう。若者とは、一般的に十代から三十代の人を指していると考えられますが、この世代は、これから子供を産み、育てていく世代です。つまり、人口を維持できる地域であり、働く人が多い地域であると考えます。では、人口が維持できる地域とは、どのような地域なのでしょう。まず、小中学校が廃校にならないことや、賑やかで活気がある元気な地域ということが挙げられると考えます。そして、働く人が多い地域とは、働いて税金を納める人が多い、つまり、六十歳以上の老年人口と学生・幼児などの若年世代を支えていける世代が多い地域のことだと考えます。したがって、私は、このような地域が若者の定住する地域であると考えます。

次に、香川県には、他の地域と比べ、自然、産業、交通、文化などにおいて、次の七つの特長があります。一つ目は、温暖で比較的自然災害が少ない気候と瀬戸内海の多島美等に代表される美しい自然があることです。二つ目は、国の地方機関や大手企業の支店など

が集積する四国の中核拠点性があることです。三つ目は、成長のエンジンとなる分野の強みを生かした産業育成です。四つ目は、瀬戸大橋、高松空港、高松港など陸海空の広域高速交通網の結節点であることです。五つ目は、瀬戸内国際芸術などに代表される数多い文化芸術の資源があることです。六つ目は、農産物、水産物など全国、世界に誇る県産品があることです。最後に、七つ目は、香川遠隔医療ネットワーク等を活用した効果的で質の高い医療提供体制を実施していることです。また、香川県が全国三位までに入るポジティブデータとして、出産千人当たりの周産期死亡率が低いことや人口十万人当たりの救急病院数が多いこと、一世帯当たりの預貯金残高が高いこと、道路舗装率が高いことがあります。私は、これら七つの特長と香川県が全国上位三位までに入る項目は、他の都道府県と比べて強みであると考えます。

さらに私には、二つの疑問がありました。まず、一つめは、香川県の若者は高校卒業後に県外に出て行く人の割合は、多いのだろうか、また、県外に進学した人は、香川県にあまり戻ってこないのだろうかということです。インターネットで調べたところ、香川県では、大学進学者の八割以上が県外の大学へ進学しています。しかし、全体の約三十五パーセントが近畿地方、約19パーセントが中国地方、約10パーセントが四国三県という比較的近距離にある大学に進学しています。このことから、潜在的にUターン志向がある学生が多いことが考えられます。よって、県内での就職を希望する大学生等に対するきめ細やかな相談に応じることや、大学卒業生等のUターン就職を積極的に支援する必要があります。一方、県外の大学に進学した学生を県内に取り戻すためには、県内産業の活性化が重要であり、地域の強みを生かした新たな活力と付加価値を生み出す成長産業の育成や、集積に積極的に取り組み、香川県の魅力を高め、Uターン就職を促進することが重要だと考えます。次に、二つ目は、人口減少ということが問題になっていますが、その解決法はあるのだろうかということです。これも、調べたところ、少子化による人口構造の変化がこのまま続けば、県民一人ひとりの生活に、様々な影響を及ぼすことが考えられます。この解決のためには、若い世代が結婚や子育てに夢を持ち、妊娠・出産や家族に対する希望を実現できるように、結婚、妊娠・出産、子育て支援や、仕事と子育てを両立し、女性が活躍できる環境整備を進めることが重要です。

また、香川県のプロジェクトの推進の中で、私が気になったものが二つあります。一つ目は「かがわ希少糖ホワイトバレー」です。香川県での産学官連携による研究成果である希少糖を香川産業の成長につなげるため、大学等の希少糖研究体制の強化や研究成果の発信により、世界をリードする知の拠点を形成します。また、希少糖

の生産・試験研究を行う企業の誘致・育成や、食品、医療品、人や自然に優しい農薬などの様々な分野における希少糖を活用した新商品開発の取り組みを促進し、希少糖産業の創出を目指します。さらに、県内外の各種イベントなどを通じて、「希少糖＝香川県」のイメージを発信していきたいと考えます。二つ目は、オリーブ産業強化です。全国トップにある香川県オリーブ産業の地位を確たるものとするため、新商品開発やオリーブオイル等商品の高品質化、ブランド力の強化を総合的に推進するとともに、県花・県木であるオリーブをより身近なものと感じることが出来るように県内での普及に努めます。具体的には、オリーブでの生産拡大の加速化、オリーブ牛、オリーブ豚、オリーブハマチの計画的な生産拡大を図れば良いのではないかと考えています。

私は、魅力ある香川県にするためには、どうすれば良いかということを経験から考えることが出来ました。その中でも、私が考える、他の都道府県と比べての強みは、非常に住みやすい自然環境であることです。私は、生まれてから今までずっと香川県で暮らしているので、そのことについて、あまり実感していませんでした。しかし、年間を通じて降水量が少なく、温暖で、台風や、地震、津波、大雪など大きな自然災害に遭遇したことはありません。これほど、自然に恵まれた場所は、ほとんどないと思います。また、もっと全国に、「うどん県、それだけじゃない香川県」として、幅広い分野から香川県をアピールできたら、香川県に住みたいと思う若者が増加すると考えました。私も、これからの香川県、日本を支えていく若者の一人として、香川県をより良くして、今よりもっと暮らしやすく、魅力ある地域にできるように貢献したいと考えました。